

教科 科目名	公民科	単位数(週あたりの授業時数)	2 単位
	政治・経済	履修学年(類型)	3 学年 普・MS科文系
教科書名(出版社名)		政治・経済(東京書籍)	

●学習到達目標

人間の尊厳と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識有る公民として必要な能力と態度を育てる。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容	
1	4月	現代経済のしくみ	①金融のしくみと機能 ②財政のしくみと機能	企業の働きや市場のしくみなどをはじめとして、現代の経済を支える基本的な概念や経済理論について理解させる。国民所得と経済成長、政府と財政政策、日本銀行と金融政策などを、実際の経済の動きと関連させながら考察させる。
	5月	日本経済の発展と産業構造の変化	①経済再建から高度成長へ ②オイルショック後の日本経済 ③日本経済の現状	戦後の日本経済がどのような道を行ってきたのかを通じて、今後のあり方について考える糸口とする。
	6、7月	福祉社会と日本経済の課題	①公害と環境保全 ②消費者問題 ③農業・食料問題 ④中小企業の現状と課題 ⑤雇用と労働問題 ⑥社会保障と福祉	公害や消費者問題など現代社会の抱える諸問題について考察するとともに、労働や社会保障などを近い将来自分と関わるものとして捉えさせる。
2	9月	現代の国際政治	①国際政治の特質 ②国際社会と国際法 ③国際連合の役割と課題 ④戦後国際関係の展開と日本 ⑤国際政治の課題 ⑥地球環境と資源・エネルギー問題 ⑦国際社会における日本の役割	国際政治の特質、国際連合の役割、国際関係の展開などについて理解させ、国際社会における日本の役割について考察させる。
	10月	国民経済と国際経済	①貿易と国際収支 ②国際経済体制の展開 ③発展途上国の経済 ④地域主義の動き ⑤グローバル化する世界経済	貿易と国際収支などのしくみについて理解させるとともに、南北問題や地域的経済統合など、現代の世界における経済的な諸課題について考察させる。
	11月	日本社会の諸課題	①少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか ②地域社会を活性化するにはどうすればよいか ③どのようにして若者の労働環境を改善するか ④中小企業の活路はどこに ⑤日本の「食」と「農」	少子高齢化、地域社会、労働環境、中小企業、「食」と「農」などの諸課題について考察させる。
		国際社会の諸課題	①地球環境にやさしいエネルギーをどう確保するか ②経済援助は貧困を削減できるか ③パレスチナ問題とは何か ④地球社会で日本がなすべきことは	地球環境とエネルギー、経済援助、パレスチナ問題、日本の役割などの諸課題について考察させる。
12月	共通テスト演習			

3	1月	共通テスト演習	
---	----	---------	--

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身につけているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な
B	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明しようとするとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を発揮しようとする。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めようとしてい
C	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解できておらず、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けていない。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明しようとしてせず、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身につけていない。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養おうとせず、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を身につけようとしていない。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査によって、出題範囲の知識・技能の習得状況、思考・判断・表現の能力を評価する。 ○ 学習活動の様子や発表、討論、ワークシートの記述などの内容を評価の資料とする。 ○ 単元ごとの振り返りや課題探求のレポートを評価の資料とする。 		
評価の重み	$\alpha=0.4$	$\beta=0.4$	$\gamma=0.2$

サンプル

教科 科目名	理科	単位数(週あたりの授業時数)	2 単位
	理数化学(化学基礎)	履修学年(類型)	I 学年 MS科
教科書名(出版社名)		改訂版 化学基礎 (数研出版)	

●学習到達目標

科学的な事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心と探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

●学習計画

学期	月	単元名	学習内容
1	4・5月	物質の構成	多種多様な物質を観察することによって、それらを整理・分類し、物質の成り立ちを追究する。
	6月	物質の構成粒子	物質を構成する基礎的な粒子である原子やイオンが種々の方法で結合した物質の構造や表しかた、それらの関係を学ぶ。
	7月	粒子の結合	物質が連続性をもたない小さな粒子からなることは中学でも学習しているが、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているかは、簡単に触れただけで終わっている。ここではそれをさらに詳しく扱うことによって、物質の性質との関連も同時に学ぶ
2	9月	粒子の結合	物質の質量と、物質を構成する原子・分子・イオンなどの質量や数との関係や、気体についてはさらに体積との関係を学び、化学の学習に欠かすことのできない物質の考え方を身につける。
	10月	物質と反応式	酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。また、pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液は必ずしも中性でないことにもふれる。
	11月	物質と反応式	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。
3	12月	酸と塩基の反応	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。
	1月	酸と塩基の反応	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。
	2月	酸化還元	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。
	3月	酸化還元	電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、すべて酸化還元反応であるから、これらもあわせて学習する。

●観点別評価

3観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	知識を問う問題にほぼ解答できる 実験を効率良く行う	思考力を問う問題に解答できる 化学現象を説明できる	自主的・積極的 協働的に取り組む
B	基本的な発問に答えられる 実験を手順通りに行う	自然科学の事象を考察できる 化学の現象名が言える	自然科学の事象の理解に 意欲を持って取り組む
C	基本的発問に答えられない 実験に参加していない	化学現象について判断しようとする	自然の科学事象に興味を持つ
評価方法	定期考査 発問に対する答え 実験に対する技能	定期考査 発問に対する答え	授業・実験に取り組む姿勢 グループ活動での取組
評価の重み	40%	40%	20%

一例であり、変更可能性があります